令和５年度 飯塚市立飯塚小学校 学校評価（教員自己評価及び学校関係者評価）

【学校経営の重点目標】

（組織運営）○各部・係を枠組みにとらわれないプロジェクトチームの編成による各種提案の実施　○企画・提案・実施・評価のタイムマネジメント　○学校運営協議会の設置をめざす学校評価の刷新

（教育課程）○前例にとらわれないアフターコロナの教育活動へのチャレンジ（子どもたちにとっての価値＋負担軽減）　○教育課程の習得を図る習熟の時間の位置付け

（研修）○教職員の資質向上のための一般研修の計画的な実施　○外部研修後の還元研修の実施　○児童の学びの見取りによる授業力の向上を図る授業研究　○不祥事防止等意識の徹底を図る研修の充実

【教育指導の重点目標】

自らの目標をもち，互いを尊重して協働し，新たな課題に挑戦する児童の育成

＜自主＞＜協働＞＜挑戦＞

☆は教員が回答を，★は教職員，指導が回答をしています。

評価項目	観点	努力点	評価（割合）% 4	3	2	1	平均	昨年度平均	昨年度比		平均	成果と課題（○）（●）	改善策（◇）	評価	学校関係者評価（評価に対する意見）
組織・運営	組織をマネジメントを生かした協働体制の確立	☆ 各部・各係が，学校教育目標の具現化に向け，学校経営の重点に基づいた企画により，自ら責任をもち校務分掌の遂行にあたることができた。	36.8%	57.9%	5.3%	0.0%	3.3	3.2	↑	0.1	3.3	○各自が担当の部・係の重点目標を意識し，責任をもって取組を進めることができた。 ○めざす子ども像を意識し，各委員会を計画的に関係し，各部・係の取組を行うことができた。 ○校時の改善により放課後の時間を確保し，個人の業務時間や学年会や部会・係会の充実を図ることができた。 ●学年・学級経営など個人の力量に頼っているところが大きく，学年会や部会・係会行う時間を設定し，マネジメントを生かした協働による組織運営が必要である。	◇学年会や係会等で運営委員会や各種委員会の内容の共通理解を図り，組織的な協働体制の充実を図る。 ◇定例の管理職及び教務主任との三者会議を計画的に実施し，充実を図る。 ◇各部・各係の年間計画の共通理解を図り，先を見通した早めの提案を行い，各取り組みの充実を図る。	3.75	・運動会等の行事で職員のまとまりが見られる。計画・運営面では管理職が大変だろうと感じる。 ・やさしい子，かしこい子，たくましい子が育っていて，全てにおいて素晴らしい。 ・教員の皆さんが使命感を持って組織マネジメントに取り組まれており，素晴らしい。
	めざす児童像に向けた学年・学級経営の推進	★ 思いやりのあり，互いに認め合う児童をめざして学年経営や学級経営等にあたることができた。（やさしい子）	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%	3.4	3.5	↓	###					
		★ 自ら考え，進んで表現し，未来に向かって自分を磨き高めようとする児童をめざして学年経営や学級経営等にあたることができた。（かしこい子）	31.3%	62.5%	6.3%	0.0%	3.3	3.3	—	0.0					
		★ 夢や目標に向かってねばり強く取り組み，挑戦し続ける児童をめざして学年経営や学級経営等にあたることができた。（たくましい子）	43.8%	50.0%	6.3%	0.0%	3.4	3.3	↑	0.1					
		★ 年間指導計画に沿って，計画的に教科の授業を行うことができた。	43.8%	50.0%	6.3%	0.0%	3.38	3.33	↑	0.0					
	教育課程の推進と言語活動を生かした教育活動の工夫	★ 学習のめあてを設定し，まとめと整合した学習指導を行うことができた。	18.8%	68.8%	12.5%	0.0%	3.1	3.0	↑	0.1	3.1	○アフターコロナの状況を踏まえ年間指導計画に沿って，外部講師を招聘したり，体験活動を実施したりすることができた。 ○「地域のひと・もの・こと」関係では，学習ボランティア（Ｌボラ，Ｋボラ），市ＡＬＴ，毛筆ＧＴ高木先生，平和ＧＴ荒木先生，社会福祉協議会，麻生情報の立花さん，竹下さんや交流センターの方々などにＧＴとして来ていただき，学習の充実を図ることができた。 ●ＩＣＴ活用に関わっては，授業，家庭学習，全校集会など活用が進んできているが，さらなる充実におけて校内研修等が必要である。	◇年間指導計画に基づく授業実施に当たっては，教科間の関連を図り，効果的な実施におけてカリキュラムマネジメントを行う。また，マネジメントした内容を記録として残していく。 ◇飯塚小校区の強みを生かした地域のひと・もの・ことの活用では，計画的に行うとともにねらいを明確にした学習活動，体験活動行い，探究的な学習を設定する。	4	・書道等の掲示物を見たらとても上手で感心した。 ・単なる知識の落とし込みではなく，地域と一体となっての取り組みが素晴らしいと思う。
		★ １時間の学びを「導入（課題把握）－展開（見通し・自力解決・交流）－まとめ」として，児童の興味・関心を高める指導を工夫することができた。	31.3%	50.0%	18.8%	0.0%	3.13	3.07	↑	0.1					
		☆ 諸教育活動のねらいや内容を見直し，活性化を図ることができた。	10.5%	73.7%	15.8%	0.0%	2.9	2.7	↑	0.2					
		★ 地域のひと・もの・ことを活用し，児童の課題解決の力を高める特別活動や総合的な学習の時間の充実を図ることができた。	18.8%	62.5%	18.8%	0.0%	3.0	3.0	—	0.0					
		★ ＩＣＴの活用により教育課程の確実な実施ができたか。	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%	3.1	2.9	↑	0.3					
研修	学力向上に向けた研究の推進	★ 授業研究を全学級１回は実施し，仮説・着眼の有効性を検証することができた。	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%	3.6	3.4	↑	0.2	3.4	○校内研修で，学力調査等の分析や学力向上に関わる取り組みの共通理解を図り，全体で取り組むことができた。 ○主題研修では，部会として研究を進め，全クラスで研究授業を実施することができた。 ●教職員の実態をつかみ，各自の力量アップにつながる一般研修のさらなる推進ならびに校外研修への参加を進める。	◇主題研修，一般研修，校外研修など年間計画を年度当初に示し，各自がその計画を踏まえた研修を進める。 ◇ＭＩドリルやＩＣＴの活用に関する研修を行い，授業や家庭学習等へ効果的な活用を図る。 ◇校外等の研修会で学んだことを校内研修において還元する一般研修を計画する。	4	・各学年，各学級の先生方の活動に工夫があり，子どもたちが生かされている。 ・校内の仕事が大変な中，様々な研修に参加されていることを知った。
		★ 学力テスト等の結果を分析し，児童の学力の実態に基づいた学力向上の取組の推進を図ることができた。	37.5%	56.3%	6.3%	0.0%	3.3	3.2	↑	0.1					
	校内研修や各種研修による指導力の向上	★ 教職員のニーズに応じ，教職員の指導力向上をめざした校内研修に積極的に参加した。	43.8%	56.3%	0.0%	0.0%	3.4	3.3	↑	0.2					
		★ 校外での研修会に積極的に参加し，教育の基礎づくりのために研修会で学んだことを授業や教育活動に取り入れることができた。	26.7%	73.3%	0.0%	0.0%	3.3	3.0	↑	0.3					
人権・同和	確かな学力を身につけるための授業改善	★ 基礎・基本の定着を図るために，具体的な手立てを工夫することができた。	31.3%	68.8%	0.0%	0.0%	3.31	3.27	↑	0.0	3.2	○基礎基本の徹底を図る全体での取り組みや個に応じた指導の充実における個別指導，分割授業，習熟度別授業の実施ができた。 ○人権尊重の視点に立った「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を共通理解のもとすすめることができた。 ●全教育活動を実施するにあたり，人権尊重の視点の意識化を図る必要がある。	◇教職員全体で子どもたちの実態を把握し，基礎基本の徹底における，個別指導，個別支援の充実を図る。 ◇各教育活動を実施するにあたり，人権の尊重の視点で内容確認を行う。 ◇人権教育学習教材集「あおぞら２」などを活用し，個別の人権課題に対する学習を進め，自他を大切にできる子どもの育成に努める。 ◇子どもたちの現状に応じた情報モラル教育を行う。	3.75	・子どもたちが，それはいけないとか，お互いに注意し合っているのを見て，きちんとしていると思う。 ・人権感覚の向上に向けてより一層真摯に取り組まれようとする強い意志を感じる。
		★ 日々の授業で，個に応じた指導など指導方法の工夫や改善を図ることができた。	25.0%	68.8%	6.3%	0.0%	3.2	3.3	↓	###					
	人権感覚の向上と自尊感情の向上を重視した学習指導	☆ 全教育活動の中に，人権・同和教育の視点に立った学習を推進することができた。	31.6%	57.9%	10.5%	0.0%	3.2	3.4	↓	###					
		☆ 様々な体験活動を通して，豊かな人間関係を作ることができるように，児童の人権感覚や自尊感情を高めることができた。	31.6%	63.2%	5.3%	0.0%	3.3	3.3	↓	###					
生徒指導	基本的生活習慣の確立	☆ 挨拶や学習の準備・整理整頓など，基本的生活習慣の定着を図ることができた。	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	3.3	3.1	↑	0.2	3.6	○日頃の子どもたちの見取りや計画的な各種調査及びいじめアンケートの実施により子どもたちの実態をつかむことができた。その実態を生徒指導委員会で共有し，組織的対応方針の決定のもとに児童に寄り添った対応行うことができた。必要に応じて教育相談やカウンセリングにつなぐことができた。 ○交通事故防止や不審者対応等の学校安全にかかわ取り組みを実施することができた。また，地域の協力により防犯カメラを設置することができた。 ●教育相談やカウンセリングで明らかになった課題に対する取り組みの方向性を学校とカウンセラーや関係機関で協議し，協働した取り組みをさらに進める必要がある。	◇基本的生活習慣に関わっては，PTA家庭教育委員会と連携した取り組みを進める。 ◇子どもの発する信号を素早くキャッチし，子どもに寄り添った支援を継続する。 ◇教育相談やカウンセリング等の内容を支援委員会で共通理解を図り，全職員で支援の方向性を確認する。また，関係機関との連携を今後も進める。 ◇毎月の支援員会で子どもたちの実態を確認し，不登校傾向やいじめの早期発見，早期対応を進める。	4	・よく努力されていると思う。 ・子ども達一人一人を理解し，声かけや話をして，笑顔で寄り添っていることがすごいと思う。 ・「いじめ」や「交通安全」等，学習以外についても活発に取り組んでいただき大変ありがたい。
	生徒指導の機能を生かした教育活動の推進	☆ 子ども一人一人のよさを認め，子どもに自己有定感や有用感，充実感を味わわせるような授業や活動に取り組むことができた。	42.1%	57.9%	0.0%	0.0%	3.4	3.3	↑	0.1					
	家庭や地域と連携した生徒指導の充実	☆ 通信や懇談会・家庭訪問等を通して，家庭との連絡を密にし，児童の理解を深め，健全育成に努めることができた。	52.6%	42.1%	5.3%	0.0%	3.47	3.44	—	0.0					
	学校安全指導の充実	☆ 交通事故防止や不審者対応等，子どもの安全対策を行うことができた。	73.7%	26.3%	0.0%	0.0%	3.7	3.6	↑	0.2					
	いじめの早期発見・早期対応	☆ 毎月アンケートを実施し，いじめの把握をし，対応することができた。	78.9%	21.1%	0.0%	0.0%	3.8	3.7	↑	0.1					
		☆ 保護者等と連携しながらいじめの早期発見・早期対応をし支援委員会で報告することができた。	68.4%	31.6%	0.0%	0.0%	3.7	3.5	↑	0.2					

評定尺度の基準　4――達成できた（80%以上）　3――だいたい達成できた（60～79%）　2――あまり達成できなかった（40～59%）　1――達成できなかった（40%以下）